

令和3年度 荒川区立第一中学校 授業改善推進プラン

		課題	授業改善の方策
国語	1年	<p>学力調査の結果を見ると、「漢字を書く」問題の正答率が目標値よりも10ポイント低い。1学期に実施した漢字コンテストでも、学年の約3分の1の生徒が合格点を取ることができなかった。また、文章を書くときも漢字を使わず平仮名で書いたり、誤字で書いたりする生徒が多くいる。日常で頻出の漢字を中心に、漢字の書きを定着させることが課題。</p> <p>そして、「作文」が目標値と比べて約4ポイント低い。特に、「指定された字数を満たして書く」、「3段落構成で段落の役割を理解して書く」、「自分の考えを明確にして書く」ことに課題がある。</p>	<p>漢字を定着させるために、新出漢字は毎学期の漢字コンテストや定期考査、週に1回の漢字小テストと繰り返し確認する。また、既習の漢字も使わなければ定着しないため、授業では漢字を積極的に使ってノートを取らせたり、文章を書かせたりする。回収したノートやプリントの誤字は訂正し、間違った漢字は都度練習させる。</p> <p>作文を書く力を高めるために、繰り返し苦手意識をもたせずに書かせる工夫をする。特に、書かせる前は必ず手本を提示する。実際1学期に、作文が苦手でも、手本があることで書くことができた生徒がたくさんいた。少しずつ書くことができるようにし、自信をつけながら力を伸ばしていく。</p>
	2年	<p>学力調査の結果から、全国平均に比べて、「漢字の書き取り」と「作文」の分野が他の項目に比べ、著しく低かった。両項目とも全国平均に比べて10ポイント近く低い。</p> <p>「漢字の書き取り」に関しては、学校内でも漢字コンテストや授業における漢字小テストを行い、学力の定着を図っているが、直前に暗記をし、テストが終わったら忘れていている生徒が多く見受けられる。</p> <p>「作文」に関しては、日々の授業の中で習得した知識を文章にして表現する時間が不足し、慣れていない生徒が多くいるのではないかと考えられる。</p>	<p>漢字コンテストや漢字小テストの学習方法についてもっと生徒に伝えていく。短期間で得た知識は短期間で抜けてしまうので、目先の点数だけではなく、重要な試験のときにも使える知識の習得をできるように指導していく。また、普段の提出物からも漢字を適切に書いているかを確認し、指導していく。</p> <p>「作文」については今年度から自分の考えを表現するために一単元終わるごとにその授業で学んだことや考えたことを作文にまとめ提出することを実践しているので、今後もその活動を続け、作文を書く力を育てていく。</p>
	3年	<p>学力調査の結果を見ると全国平均に比べて、全分野において2～4点低い結果となった。徐々に力がついてきているように見えるが、今後も基礎の徹底から受験に向けての応用力の育成をしていく必要がある。</p> <p>特漢字の書き取りは他の分野に比べても低く、漢字コンテストや日々の小テストだけではない漢字の学習を促す工夫や授業展開が必要であると感じた。</p> <p>最後に、昨年度から取り組んでいる作文に関して、目標値には達しているが、全国平均には届かなかったため、今後も継続して文章を書く時間をつくる必要がある。</p>	<p>授業での徹底をすること。応用的な問題にも取り組む時間を設け、力を育成していく。</p> <p>漢字を復習できる教材を活用し、漢字コンテストや漢字小テスト以外にも生徒が漢字の学習に取り組む機会を増やしていく。小学校～中学2年生までの復習にも力を入れ、基礎の徹底をしていく。</p> <p>作文の力もさらに伸ばしていくことができるように、書く機会を多く設けたい。</p> <p>漢字・作文に関しては、普段の提出物からも生徒の実態を把握し、必要であれば個別に指導をしていきたい。</p>

社会	1年	講師対応	講師対応
	2年	学力調査では、全国平均正答率 55.3%に対して、校内平均正答率は 57.1%となっている。目標値も概ね超えているが、「地球の姿をとらえる」や「世界の諸地域」のように、目標値を下回っていたり、ほぼ目標値通りの分野もある。観点別正答率も目標値は超えているが、今後も学習への意欲を持ち、主体的に学ぶ姿勢を継続することが課題である。	単元ごとのまとめで基礎的知識の定着を図ることを継続する。学習した時期から時間が経過したものについては、理解があいまいになっているものもあるため、学習内容を見直す機会も設けていく。自分の考えを自分の言葉で表現する力をつけられるように、機会を設けていく。
	3年	学力調査では、全国平均正答率 55.5%に対して、校内平均正答率は 47.7%と大きな開きがある。基礎問題の正答率は、8.9%の開きがあり、観点別正答率も全国平均をすべて下回っている。これまでの学習内容を理解することと基礎的知識の定着を図ることが課題である。	1、2年で学習した地理・歴史の学習内容について、ワークなどを利用して、取り組み予定を立てて理解できるようにする。特に、基礎的知識の定着を図ることができるよう振り返りの機会を設けていく。公民分野については、身の回りの事象との関わりを意識しながら、単元ごとのまとめを行い、学習内容の理解と定着を図る。
数学	1年	標準学力調査では、区平均正答率 70.0%、全国平均正答率 68.2%に比べ、校内平均正答率は 64.0%と大きく下回っている。領域別で見ても、すべての領域で目標値を下回っている。この結果から、数学そのものに苦手意識を感じ、基礎的な知識・技能が定着していない生徒が多いことがわかる。活用や数学的思考を身に付けるために必要な基礎的な知識・技能が身につけておらず、なかなか数学に意欲的に取り組むことができない生徒が多い。	授業の開始時に小テストを実施し、知識の定着度やしっかり取り組んでいるかなどを確認していく。授業内では、発問を多くして、多くの生徒に答えさせることで「できた」や「わかった」をひとりひとりが感じることで、数学の苦手意識を取り払い、数学に意欲的に取り組む姿勢や態度を身に付けさせたい。また、単元の導入時やまとめなどで、グループワークを実施し、自分の意見を発表したり、周りの生徒の意見を聞くことで、ひとりひとりが考える時間をつくり数学的思考を身に付けさせたい。
	2年	学力調査では、全体で見ると、目標値 59.7%、区平均正答率 60.9%、全国平均正答率 58.6%と比較して、校内平均正答率は 62.3%と上回っている。単元別に見ると、正の数・負の数は 92.4%と高いが、1次方程式は 52.9%、比例・反比例は 50.2%と他に比べて低くなっている。数学に意欲的に取り組み、数学的な考え方や技能を身につけてきていることは、観点別正答率が全て目標値をクリアしていることから分かる。	授業で学び、身につけた基礎的な知識や技能を、生徒それぞれが活用し、数学的に考えていくことができるようにしたい。そのため、授業では教授に重きを置くのではなく、発問を増やして生徒に考えさせる時間をとる。そしてその考えたことを周囲と共有し、伝える力と聞く力も育んでいく。 今後扱う一次関数とそのグラフは、生徒たちにとって苦手な単元であると思われる。一次方程式や比例・反比例の単元の復習もしながら、まずは基礎的な内容の理解と定着に注力していく。
	3年	4月におこなわれた区の標準学力調査では目標値と比べ正答率が1.4ポイントほど下回っている。また単元別に見ると、数と式や図形、資料の活用などは目標値とほぼ	全体として、2次関数の内容に入る際には、1次関数の復習から丁寧におこなうと同時に、毎回の定期考査に1次関数や確率の問題を入れ、常に復習する機会を与える。また標準～発展クラスの生徒に対し

		<p>等しくなっているが、活用や関数、数学への関心・意欲・態度、記述問題が目標値よりも7～15ポイントと大きく下回っている。この結果から、計算問題は基本が定着されているが、関数や図形問題については基本がまだ定着していない生徒が多いことが分かる。</p>	<p>では、これまでの学習内容に加えて自らの考えを相手に伝え、教えあうことができるような授業内容を取り入れる。基礎クラスの生徒については、基礎の反復練習などを取り入れ、授業の中で「できた」と感じさせ、意欲の向上を図り、基礎学力の定着を図る。</p>
理科	1年	<p>学力検査の結果を観点別の正答率で見ると、全国平均より大地の変化が12パーセント、物の燃え方が9パーセント、水溶液が7パーセント低くなっている。これらの項目については特に対策の必要性を感じる。ただ、理科に対する興味関心は非常に高く、理科室での観察、実験もかなり熱心に集中して取り組んでいる生徒が多い。今後の課題として、知識と実際の生活経験を結びつけられるような授業で取り組みや発問の必要性を感じる。そのために単元ごとの小テストの回数を増やし知識の定着を図ることが大切だと考える。</p>	<p>大地の変化の項目で都会では建設現場における「くい打ち作業」の様子などを紹介し、東京の地下の様子地層、地震の揺れなど深めていく。物の燃え方、水溶液の項目は実験を徹底的に行うことで、補っていく。その他の項目も決して高いわけではないので、日々観察をする習慣をつけさせる。博物館、水族館、動物園などの施設やそこで行われるイベント等も紹介していければと考えている。さらに実験・観察の機会を増やし、自分の考えをレポートにまとめさせることにより、法則や原理を導き出す力が養っていく。問題演習の時間を授業中に確保することで知識の定着をはかっていく。</p>
	2年	<p>4月実施の学力調査では、物質、植物、音、力、火山の項目で全国平均を上まわっている。その他の項目でも区の平均を上まわっているものが多い。ただ、気体の項目だけが極端に低いので、実験、観察を通じてのレポート課題の提出や単元ごとのまとめや小テストの回数を増やし知識の定着を図ることが大切だと考える。</p>	<p>自然事象への興味関心を高め観察・実験の技能を伸ばしていくために、実物に触れて学ぶ機会を増やす。実験や観察の結果をレポートにまとめ提出させる。そこから、法則や原理を導き出す力が養わせる。</p> <p>人体について学ぶが、普段から自分の体の仕組みに興味・関心を持たせる。特に運動部の活動を通して、筋肉の仕組みを理解させたい。また、身近な生物に興味・関心を持たせるなど働きかけている。</p> <p>また、計算やグラフ化を苦手にする生徒も多いので、練習問題に取り組む時間を確保、小単元が終わるたびに簡単な小テストの実施などを行い、知識の定着を確実にやっていく。</p>
	3年	<p>本年度4月実施の区学力調査の結果では、2年前の中学校入学時の1年生のときと同じように、全国の標準スコアと比べ約4ポイント低く、学力向上が図られていない結果になっている。</p> <p>今年度は応用問題よりも基礎問題の正答率が低くなっているのが課題であり、分布としては、50%～40%と40%～30%の人数が大きくなっている。</p> <p>また観点別正答率では、知識・理解が全国平均より低く、特に観察・実験の技能が全国</p>	<p>実験・観察の技能のスコアが大変低くなっているが、昨年度も化学の授業を行っているが、今年度は実験に対しての取り組みが飛躍的に意欲的になっているので今後の学力向上が期待できると考えている。また基礎学力については、毎授業ごとに前回の復習や、基本事項の確認を行うことで、反復学習を行うとともに、復習項目も随時行っている。また夏季休業中に理科だけの特訓講座も行い、わずかずつであっても学力向上を図っていく。</p> <p>学力の不十分な生徒については、学習方法の検討をさせるアドバイスを絶えず行い、本来もっている</p>

		平均を大きく下回っているのが課題である。	能力を発揮できるように導いていく。
音楽	1年	歌唱活動に積極的、意欲的に歌う生徒が多い。反面、自分の声に自信をもてず、全体の声の中に入っていけない生徒も中にはいる。自分だけでなく周囲も巻き込んで高め合える雰囲気を作っていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し解説をし、基礎基本が徹底できるようにする。 ・授業のはじめに一時間の流れを示し、目的を持って授業展開ができるようにする。 ・生徒の演奏に対し適切に評価し、向上につなげる。
	2年	<p>前向きな姿で授業に取り組む生徒と、本気で取り組めるまでに時間のかかる生徒に大きな差がみられる。授業数が少ないため、集中して取り組める時間を多く取れるように工夫したい。学年全体としては、全体の気持ちをそろえてまとまった声で合唱ができるよう工夫が必要である。</p> <p>また、話を聞く姿勢を徹底させたい。授業中規律を守って受けている生徒と、自分の思ったことをすぐに言葉にしてしまう先生で2極化している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発声の基本を身につけさせ、自信をもって歌える技能を身につけさせるとともに、大きな声で歌っても恥ずかしいと思わないような環境を整える。 ・指示、発問を的確にし、生徒が授業に取り組みやすくする。 ・パート練習等を効果的に活用し、授業の成果を実感できるようにする。 ・「できた」という生徒の思いを大切にし、さらに伸長できるための手立てを考えさせる助言を行う。
	3年	<p>真面目に授業を受けようとする生徒が多いが、積極性がさらに欲しい部分がある。大きな声で表現することが楽しく感じられるような指導の工夫が必要である。</p> <p>3年間の集大成として合唱コンクールを中心とし、クラス全員で1つのものを作り上げる喜びを感じられる授業展開が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲についての発展的な内容だけでなく、ときに基礎の発声や歌う姿勢などにも立ち返り、全員が意欲を持って取り組める工夫をする必要がある。 ・授業の導入で音楽に入り込める指導を心がける。 ・パート練習等を効果的に活用し、授業の成果を実感できるようにする。 ・「できた」という生徒の思いを大切にし、さらに伸長できるための手立てを考えさせる助言を行う。
美術	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・レタリングや平面構成の課題に対して、どの生徒も意欲的に取り組んでいる。時間をかけて丁寧に作品を完成しようという根気強さもあり、前向きである。 ・細かい作業や着色に自信がない生徒もいるので、その時間の取り組み目標を個々に設定して、わかりやすい授業を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面作品におけるポスターカラーの技法や、レタリングの技法の基礎知識を理解させ、自分の作品に工夫して取り入れさせる。途中であきらめないで、一つの作品を完成させるように指導する。 ・立体作品では、彫刻刀の使用のしかたや、安全に道具を使う指導をし、基本的な彫りかたを工夫して自分の作品に取り入れる。
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から、美術のどの分野においても興味をもって制作に取り組んでいる。また、作品制作において、各自でテーマ設定を行うが、なかなか自分で設定できない、悩んで決められない生徒もいる。いろいろな資料や写真、PCを活用して、テーマを絞り込む方法をアドバイスしていく必要があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠近法を使った技法で平面構成を行う場合、透視図法を使って簡単な構成作品を練習させることで、どの生徒も自信を持って作品制作ができるように、指導していく。 ・参考資料の選択のしかたや、PCで、効果的な検索方法を指導することで、いろいろな方面から角度から自由に素材を選択できるということで、工夫した作品作りができる。

	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対しては、1時間1時間を大切に作り組む姿勢がよくなっている。 ・平面作品では、自画像の着彩方法や配色で工夫して自分らしい作品制作する生徒と、途方にくれている生徒の二極化している。苦手意識の克服面でのサポートが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の着彩方法を提示して、それぞれにあった技法を取り入れて指導する。 ・自分の作品を、あきらめないで最後まで完成させ、根気強く取り組めるよう指導する。
技術	1年	<p>作業内容には、協力することが求められるものもある。仲間関係をより良いものにするため、言語活動を多用することが課題である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 教え合い学習。 2, 協力する作業の充実。 3, 安心して作業に取り組める環境作り。 	<ol style="list-style-type: none"> 1, について その日の授業課題を、班の中で取り組める内容を用意する。 2, について 授業内容により、集中的に「手伝おうか」「手伝って」という会話に取り組む。 3, について 工具類の置き場を十分理解させ、片付けを徹底することで互いに作業がやりやすくなることを理解させる。
	2年	<ol style="list-style-type: none"> 1, よりわかりやすい説明をするために、ユニバーサルデザインを利用する。 2, 適切な行動をとっている生徒に、より多くの注目を集める。 3, 仲間同士のコミュニケーション能力を向上させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1, について 教室内の各表示を、ユニバーサルデザインを意識して行う。 2, について 授業開始時間、作業への取り組み方など、チャンスをたくさん作ってその場で評価していく。 3, について すべての授業時間に、班での教え合い学習を取り組ませ、上手な話し方、聞き方を理解させる。
	3年	<p>より深い学びにしていくために、さらに議論を重ねながら、授業を進めるよう取り組んでいくことが課題である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 班ごとの取り組みとして授業を進めていく。 2, 互いに教えあっていることをより推進していく。 3, 授業中に論議できるよう課題を提示していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1, について 授業内容、作業内容のすべてを、班での教え合い、助け合い学習に取り組ませる。 2, 進路の面接と関係させて、正確な話し方、質問の仕方を理解させる。 3, 一つのテーマを中心にして、より広い考え方や違った視点を持つ人の意見に耳を傾けられるようにする。 できていることをたくさん認め、「おもしろい発想」を取り上げていく努力をする。
家庭	1年	講師対応	
	2年	講師対応	
	3年	講師対応	

保健体育 男子	1年	積極的に運動に取り組む生徒と、消極的な生徒に分かれ、消極的な生徒や支援の必要な生徒が多く、「疲れた」と発言する生徒も多い。 集団行動や授業規律は指導したことは自薦している。	ショートステップで目標を持たせ、肯定的な声掛けを増やすことで、達成感を味合わせながら運動への興味関心を高めていきたい。
	2年	体力測定の結果では、概ね都の平均値に近い記録となっている。長距離走と投げる能力がやや低い。運動への興味関心は高く、前向きな生徒が多いが、思春期を迎え一部に積極性が失われた生徒がみられる。	球技の中で投げる機会を増やす。長距離走や持久的な運動を取り入れ、体力の課題を克服させていきたい。 肯定的な評価を心掛け、教えあいの機会を多く持つようにし、理解や興味関心を高めていきたい。
	3年	体力測定の結果では都の平均をやや下回ったが、積極的に授業に取り組んでいる。特に長距離走や投げる力に課題がある。 保健の内容への取り組みも積極的になってきた。	球技の中で投げる機会を増やす。長距離走や持久的な運動を取り入れ、体力の課題を克服させていきたい。 肯定的な評価を心掛け、教えあいの機会を多く持つようにし、理解や興味関心を高めていきたい。
保健体育 女子	1年	授業規律は確立しているが、積極的に活動する生徒と指示待ちの生徒と分かれてしまっている。体力テストで、長座体前屈と立ち幅跳び、握力、ハンドボール投げの記録が低い、特に握力とハンドボール投げの記録が低い。	自主的な活動を促すために、グループ活動や学習カード、タブレット PCなどを活用していきたい。球技の授業で投げる動作時の体の使い方や投力を高められるようにするとともに、上肢筋力を鍛えられるようにしたい。また、脚筋の瞬発力を高められる運動を取り入れていきたい。
	2年	講師対応	講師対応
	3年	授業規律は確立している。自主的な活動や話し合い活動も増えている。体力テストで、握力とハンドボール投げの記録が若干低い傾向にある。	グループ学習を多く取り入れ、仲間と協力して教えあう場面をこれからも取り入れて授業を行っていく。球技の授業で投げる動作時の体の使い方や投力を高められるようにするとともに、上肢筋力を鍛えられるようにしたい。
英語	1年	学習指導要領の改訂により、昨年度とは内容も難易度も全く違うという状況の中で、授業についてこられない生徒が多く見られる。このままでは理解できないから英語は嫌いな教科だ。という生徒が多くでそうであり、大いに危惧している。	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラス編成の工夫を行う。 ・グループ・ペア活動がスムーズに行えるよう、座席の工夫を行う。 ・日本語による説明だけでなく、パワーポイント等を効果的に用いながら、イメージで英語を定着させていく。 ・次年度に向けて、小学校との連携を密にとり、それぞれの現状を把握し、スムーズな接続を実現させる。
	2年	学力調査の結果から、区全体の平均と同等の結果を残せた。また、達成率においては区の数値より高い数値を出せた。 問題の内容別正答率を見ると、全国正答率から大きく下がる項目はなく、中でもリス	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション活動の工夫。 ・ 「聞く」「話す」が中心のコミュニケーション活動に加え、「書く」ことで相手に自分の意見や考えを伝える活動も行う。 ・ 教科書を有効的に活用し、「読む」力をつける。

	<p>ニングに関しては全ての問題において全国正答率より大きく上回ったので、リスニングは定期的に授業でも取り入れていく。</p> <p>その反面、読むこと・書くことに関しては正答率が全国正答率より下がってしまった問題が多くあった。</p> <p>読むことに関しては、ある程度まとまった中文、長文の読み取り、書くことに関してはテーマを限った英文に対し正答率がやや下がってしまった。</p> <p>対話文は、授業の帯学習で行っていることもあり、正答率は悪くなかった。今後は英作文を書く活動も意欲的に取り入れ、読解力を高められるよう、指導の改善を図っていく。</p>	<p>教科書内の「USE READ」や「Let's Read」内の記事やブログ、物語を読む活動を充実させる。</p>
<p>3年</p>	<p>学力調査の結果から、前年度に比べ校内正答率、目標値を上回っている。校内の平均値は目標値より2.2ポイント上がった。問題の内容別正答率を見ると、場面に応じて英作文することが著しく低い。また、単語の並べ換えによる英作文は目標値よりも高くでているため、今後も継続して授業の中で取り入れていきたい。英作文に関しては、かなり点数として低くでているため、今後の授業での対策が必要である。全体的に基礎はある程度身につけているが、応用力が全体の問題を通して見受けられるので、対策を練っていく。</p>	<p>英作文に対して苦手意識を持っている生徒が多く、解答用紙にほとんどなにも書くことができていないようであったため、授業の帯活動に簡単な英作文活動を取り入れ。毎時決まったテーマや具体例、文型を提示し、英作文が苦手な子にも取り組みやすくなるような工夫をしていく。作成の中で主語と動詞のともなった作文作成を意識させていく。語彙に関しては、タブレット端末を用いて英単語テスト等を行い、生徒それぞれの語彙の確認をしていく。授業の中でのお互いのコミュニケーションをはかり、それぞれの意見や考えを伝えあいながら、学びを深めさせる。</p>